

## 【高速バス予約システム】要求一覧

### ■バス会社の経営目標

- ・売上10%向上
- ・経費20%削減

### ■システム開発の目的

一般の利用者に気軽にバスを予約させる。  
顧客満足度を上げる。

No	サブシステム	要求内容	要求理由
1	利用者	バスの予約ができること。	
2	利用者	システムは空席管理を行い、満席の場合は予約できないこと。	満席の場合は予約できる席が無いから。
3	利用者	1回の予約で複数の座席が予約できること。	2名で隣り合って座るなどのニーズに応えるため。
4	利用者	利用者は路線検索から予約できること。	多くのユーザが発着地が決まった状態で予約するため。
5	利用者	利用者は座席を指定して予約できること。	好みの席に予約させることが利便性が高いから。
6	利用者	ログインしていなくても路線検索ができること。	会員登録前にどんな路線があるかがわからなければ、会員登録に繋がらないため。
7	利用者	会員登録、ログイン機能があること	予約する度に個人情報を入力させるのは大変であるため
8	利用者	予約一覧で今まで予約した内容が参照できること。	どんな予約をしたのかが見れないと、利用者が不安になり問合せが増えるため。
9	利用者	搭乗日の前日までは予約のキャンセルができること。	予約キャンセルの電話を減らしたいため。
10	利用者	90日先までしか予約できないこと	路線廃止の判断を3カ月前程度に実施するため。
11	運用管理者	運用管理機能はフォーム認証があること。	個人情報などの機密情報を扱うため、認証機能が必要。
12	運用管理者	バスを登録できること。	バスを購入した際に登録するため。また、シートマップの情報として必要なため。
13	運用管理者	バスを削除できること。	誤って登録した際に削除してから再登録するため。廃車の際は削除せずシステムに登録したままでよい。
14	運用管理者	路線を登録できること。	利用者が予約できるようにするため。
15	運用管理者	路線の運行終了日は無期限も許すこと。	路線の運航を開始した直後は、いつまで運行するか決まっていないことがあるため。
16	運用管理者	路線を更新できること。	路線が誤って登録されている場合に正しい内容に更新したいため。また、運行開始日や終了日を途中で変更することがあるため。
17	運用管理者	路線を削除できること。	誤って登録した際に削除してから再登録するため。廃車の際は削除せずシステムに登録したままでよい。
18	運用管理者	会員情報を確認できること。	利用者の問い合わせ対応に必要なため。
19	運用管理者	会員の予約状況を確認できること。	利用者の問い合わせ対応に必要なため。
20	運用管理者	日別に路線の予約状況を確認できること。	バスの運転手が搭乗場所で乗車確認する際に必要。名前で確認する。
21	運用管理者	バスや路線の変更により、予約済みの利用者に影響を与えないこと	予約したのに搭乗できなくなると大問題になるため。
22	運用管理者	指定した会員の予約を確認したい。	会員の問い合わせ対応に必要なため
23			
24			
25			